



生徒会給食委員会の取組 ～全国学校給食週間の取組の一環として～

1月22日(月)の生徒集会(リモート)で、1月の生徒会強調委員会である給食委員会から発表がありました。給食委員会では全国学校給食週間(1月24日～1月30日:紙面下段も参照)を含む9日間、給食に関する啓発活動を行っています。以下の3つはその具体的な取組です。

- ① 給食委員が給食に関わる方々の苦勞されている様子が分かる画像や動画を使ってプレゼンテーションを行う(1月22日(月)の生徒集会で、実施済み)。
- ② 1月23日(火)～1月30日(火)の給食の時間に「給食クイズ」を行い、食に関する意識の啓発を行う。
- ③ 前日の給食残量(全校分)をランチルーム前に毎日掲示し、苦勞して作っていただいた給食を「できるだけ残さないように食べる」という意識の啓発を行う。



①のプレゼンテーションでは、「食材の受け取り」「下処理(皮むき・洗浄・裁断)」「調理の行程」等の様子が動画を使って詳しく紹介されました。また、生産者からの「手塩にかけて育てた食材を残さずに美味しく食べてほしい」という願いが語られた映像も視聴しました。

こうして多くの関係者の尽力により作られた給食を、本校ではしっかりと食べる習慣が身に付いている子どもたちが多いと感じます。

私は、「大きな声を出して歌うことができること」「給食が残らないこと」は、よい学級や学校のバロメーターの一つと考えています。したがって、校内音楽祭や音楽の授業でしっかりと歌い、給食の時間に残さずしっかりと食べられる子どもたちが多い綾川中学校はとてもよい学校と言えるのかもしれませんが。

本校では、町教育委員会の指導のもと、栄養教諭が栄養のバランスと美味しさを追究した献立を作成し、調理員とともに安全で安心な給食を提供するために日々努力しています。

「食」という字は「人」を「良くする」と書きます。学校給食は、子どもたちを毎日笑顔にしています。ぜひ、ご家庭でも給食の話題をもとに楽しく食事をお過ごしください。



【早朝からの食材の受取】



【葉物を1枚1枚3回に分けて洗浄】



【生産者の方からの話】

我が国における学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていききましたが、戦争の影響などによって中断されました。戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA(Licensed Agencies for Relief in Asia:アジア救援公認団体)から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開(「学校給食実施の普及奨励について」昭和21年12月11日文科部、厚生、農林三省次官通達)されました。

昭和21年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を「学校給食感謝の日」と定めました。昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。

学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われています。

(文部科学省HPより)